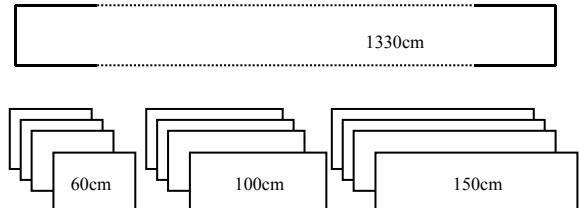


離散数学及び演習 講義 8 2016. 6. 9(木)2限

1次不定方程式
(教科書 pp.117-127)
合同式
(教科書 pp.127-131)

問題

長さ 60cm, 100cm, 150cm の鉄板を使って、
長さ1330cm の溝を覆うためには、どの鉄板を
何枚使えばよいか？



2

問題の定式化

長さ 60cm, 100cm, 150cm の鉄板の枚数をそれぞれ
 x, y, z とすると、

$$60x + 100y + 150z = 1330$$

の非負整数解を求める。

解1 $x=8, y=1, z=5$

解2 $x=13, y=4, z=1$

解3 $x=8, y=4, z=3$

解4 $x=3, y=4, z=5$

⋮

3

1次不定方程式

- 係数 $a_1, a_2, \dots, a_n, b \in \mathbb{Z}$, 変数 $x_1, x_2, \dots, x_n \in \mathbb{Z}$ についての(n 元)1次不定方程式
(indeterminate equation)
 - $a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n = b$
 - 1次不定方程式の解 … 整数解

4

定理(復習)

- 任意の $m, n \in \mathbb{Z}$ に対して, $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して,
 $mx + ny = \gcd(m, n)$.

$$\text{例: } \gcd(10, 15) = 5 = 10 \cdot (-1) + 15 \cdot 1$$

$$\gcd(30, 77) = 1 = 30 \cdot 18 + 77 \cdot (-7)$$

- 任意の $a_1, a_2, \dots, a_n \in \mathbb{Z}$ に対して,
 $x_1, x_2, \dots, x_n \in \mathbb{Z}$ が存在して,
 $a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n = \gcd(a_1, a_2, \dots, a_n)$.

5

定理(1次不定方程式の解の存在)

- 任意の $m, n \in \mathbb{Z}$ に対して, $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して,
 $mx + ny = k$ であるとき, かつそのときに限り,
 $\gcd(m, n) \mid k$.
- 任意の $a_1, a_2, \dots, a_n \in \mathbb{Z}$ に対して,
 $x_1, x_2, \dots, x_n \in \mathbb{Z}$ が存在して,
 $a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n = b$ であるとき,
かつそのときに限り,
 $\gcd(a_1, a_2, \dots, a_n) \mid b$.

6

証明

任意の $m, n \in \mathbb{Z}$ に対して, $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx+ny=k$ であるとき, かつそのときに限り, $\gcd(m, n) \mid k$.

- a) $\exists x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx+ny=k$ ならば, $\gcd(m, n) \mid k$ を示す.
- b) $\exists \gcd(m, n) \mid k$ ならば, $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx+ny=k$ を示す.

- a) $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx+ny=k$ と仮定する.
 $\gcd(m, n) \mid m$ かつ $\gcd(m, n) \mid n$ だから, $\gcd(m, n) \mid mx+ny$.
 すなわち, $\gcd(m, n) \mid k$.
- b) $\gcd(m, n) \mid k$ と仮定する.
 このとき, $q \in \mathbb{Z}$ が存在して, $k=q \cdot \gcd(m, n)$.
 一方, 定理から, $x', y' \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx'+ny'=\gcd(m, n)$.
 ゆえに, $k=q(mx'+ny')=mqx'+nqy'$.
 ここで, $x=qx'$, $y=qy'$ とおくと, $x, y \in \mathbb{Z}$ であり, $mx+ny=k$.

7

系(1次不定方程式の解の存在)

任意の $m, n \in \mathbb{Z}$ に対して, $\gcd(m, n)=1$ ならば, $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx+ny=k$.

- 「任意の $m, n \in \mathbb{Z}$ に対して, $\gcd(m, n) \mid k$ ならば, $x, y \in \mathbb{Z}$ が存在して, $mx+ny=k$ 」から明らか.

8

定理(1次不定方程式の解の全体)

$\gcd(m, n) \mid k$, かつ, 1次不定方程式 $mx+ny=k$ の解のひとつ(特殊解)を x_0, y_0 とすると,

$x, y \in \mathbb{Z}$ が解であるとき, かつそのときに限り,

$$\begin{aligned} x &= x_0 + \frac{n}{d}q \\ y &= y_0 - \frac{m}{d}q \quad (q \in \mathbb{Z}). \end{aligned}$$

ただし, $d=\gcd(m, n)$.

- 一般解は上記のように表せる.
 - 1次不定方程式は, 解が存在するならば, 解は無数に存在する.

9

10

証明

$\gcd(m, n) \mid k$, かつ, $mx+ny=k$ の特殊解を x_0, y_0 とすると, $x, y \in \mathbb{Z}$ が解であるとき, かつそのときに限り,

$x=x_0+(n/d)q, y=y_0-(m/d)q$ ($q \in \mathbb{Z}$). ただし, $d=\gcd(m, n)$.

- a) $\exists x=x_0+(n/d)q, y=y_0-(m/d)q$ ならば, x, y は解であるを示す.
- b) $\exists x, y$ が解であるならば, $x=x_0+(n/d)q, y=y_0-(m/d)q$ を示す.

$$\begin{aligned} \text{a) } x &= x_0 + (n/d)q, y = y_0 - (m/d)q \text{ とすると,} \\ mx+ny &= m(x_0 + (n/d)q) + n(y_0 - (m/d)q) \\ &= mx_0 + ny_0 \\ &= k \end{aligned}$$

だから, x, y は解である.

証明

$\gcd(m, n) \mid k$, かつ, $mx+ny=k$ の特殊解を x_0, y_0 とすると,

$x, y \in \mathbb{Z}$ が解であるとき, かつそのときに限り,

$$x=x_0+(n/d)q, \quad y=y_0-(m/d)q \quad (q \in \mathbb{Z}).$$

- b) $\exists x, y$ が解であるならば, $x=x_0+(n/d)q, y=y_0-(m/d)q$ を示す.

b) x, y は解であるとする. このとき, $mx+ny=k$.

x_0, y_0 は特殊解だから, $mx_0+ny_0=k$.

ゆえに, $m(x-x_0)=-n(y-y_0)$.

ところで, d は m, n の最大公約数だから, $m', n' \in \mathbb{Z}$ が存在して,

$m=m'd, n=n'd$ (ただし, $\gcd(m', n')=1$).

ゆえに, $m'd(x-x_0)=-n'd(y-y_0)$ だから, $n' \mid m'(x-x_0)$.

$\gcd(m', n')=1$ だから, $n' \mid x-x_0$.

このとき, $q \in \mathbb{Z}$ が存在して, $x-x_0=q \cdot n'$.

ゆえに, $x=x_0+n'q=x_0+(n/d)q$.

また, $-n'd(y-y_0)=m'd(x-x_0)=m'dqn'$ だから, $y-y_0=-m'q$.

ゆえに, $y=y_0-(m/d)q$.

11

12

1次不定方程式の解法

- 入力: $m, n, q \in \mathbb{Z}$ ($m>n$)
- 出力: $mx+ny=q \cdot \gcd(m, n)$ の整数解 x, y
- 手順: $mx+ny$

$$\begin{aligned} &= (q_1n+r_1)x+ny \\ &= n(q_1x+r_1) \\ &= nx_1+r_1x \quad x_1=q_1x+r_1 \\ &= (q_2r_1+r_2)x_1+r_1x \quad n=q_2 \cdot r_1+r_2 \\ &= r_1(q_2x_1+r_2)+r_2x_1 \\ &= r_1x_2+r_2x_1 \quad x_2=q_2x_1+r_2 \\ &= (q_3r_2+r_3)x_2+r_2x_1 \quad r_1=q_3 \cdot r_2+r_3 \\ &= r_2(q_3x_2+r_3)+r_3x_2 \\ &= r_2x_3+r_3x_2 \quad x_3=q_3x_2+r_3 \\ &\vdots \end{aligned}$$

1次不定方程式の解法(続き)

- 入力: $m, n, q \in \mathbb{Z}$ ($m > n$)
- 出力: $mx+ny = q \cdot \gcd(m, n)$ の整数解 x, y
- 手順: $mx+ny$

$$\begin{aligned} &= (q_k r_{k-1} + r_k) x_{k-1} + r_{k-1} x_{k-2} & r_{k-2} = q_k \cdot r_{k-1} + r_k \\ &= r_{k-1} (q_k x_{k-1} + x_{k-2}) + r_k x_{k-1} \\ &= r_{k-1} x_k + r_k x_{k-2} & x_k = q_k x_{k-1} + x_{k-2} \\ &= (q_{k+1} r_k) x_k + r_k x_{k-1} & r_{k-1} = q_{k+1} \cdot r_k + \textcolor{red}{0} \\ &= r_k (q_{k+1} x_k + x_{k-1}) \\ &= r_k x_{k+1} & x_{k+1} = q_{k+1} x_k + x_{k-1} \end{aligned}$$

ゆえに, $r_k x_{k+1} = q \cdot \gcd(m, n)$

Euclid の互除法より, $r_k = \gcd(m, n)$ だから, $x_{k+1} = q$.

13

1次不定方程式の解法(続き2)

- 入力: $m, n, q \in \mathbb{Z}$ ($m > n$)
- 出力: $mx+ny = q \cdot \gcd(m, n)$ の整数解 x, y
- 手順: $x_{k+1} = q_{k+1} x_k + x_{k-1} = q$

■ 特殊解 $x_k = 0$ とおく.

$$\begin{aligned} x_{k-1} &= x_{k+1} - q_{k+1} x_k & = q \\ x_{k-2} &= x_k - q_k x_{k-1} & = -q_k q \\ x_{k-3} &= x_{k-1} - q_{k-1} x_{k-2} & = q - q_{k-1} (-q_k q) \\ &\vdots & \\ x_1 &= x_3 - q_3 x_2 & \\ x &= x_2 - q_2 x_1 & \\ y &= x_1 - q_1 x & \end{aligned}$$

14

1次不定方程式の解法(続き3)

- 入力: $m, n, q \in \mathbb{Z}$ ($m > n$)
- 出力: $mx+ny = q \cdot \gcd(m, n)$ の整数解 x, y
- 手順: $x_{k+1} = q_{k+1} x_k + x_{k-1} = q$

■ 一般解 $x_k = u$ とおく. ($u \dots$ パラメータ)

$$\begin{aligned} x_{k-1} &= x_{k+1} - q_{k+1} x_k & = q - q_{k+1} u \\ x_{k-2} &= x_k - q_k x_{k-1} & = u - q_k (q - q_{k+1} u) \\ x_{k-3} &= x_{k-1} - q_{k-1} x_{k-2} & = \dots \\ &\vdots & \\ x_1 &= x_3 - q_3 x_2 & \\ x &= x_2 - q_2 x_1 & \\ y &= x_1 - q_1 x & \end{aligned}$$

15

1次不定方程式の解法(続き4)

例: $14x - 6y = 4$ の整数解 x, y

$$\begin{aligned} 14x - 6y &= ((-2) \cdot (-6) + 2)x + (-6)y & 14 = (-2) \cdot (-6) + 2 \\ &= (-6)(\textcolor{red}{-2x+y}) + 2x & \boxed{x_1 = (-2)x + y} \\ &= -6x_1 + 2x & -6 = (-3) \cdot 2 + 0 \\ &= ((-3) \cdot 2)x_1 + 2x & \\ &= 2(\textcolor{red}{-3x_1+x}) & \\ &= 2x_2 & \boxed{x_2 = -3x_1 + x} \end{aligned}$$

ゆえに, $2x_2 = 4$ だから, $x_2 = 2$.

■ 特殊解 $x_1 = 0$ とおく.

$$x = x_2 - (-3)x_1 = 2$$

$$y = x_1 - (-2)x = 4$$

■ 一般解 $x_1 = u$ とおく.

$$x = x_2 - (-3)x_1 = 2 + 3u$$

$$y = x_1 - (-2)x = u + 2(2 + 3u) = 4 + 7u$$

16

1次不定方程式の解法(続き5)

例: $14x - 6y = 4$ の整数解 x, y 絶対値最小の係数で括る

$$\begin{aligned} 14x - 6y &= (-6)(\textcolor{red}{-2x+y}) + 2x & \leftarrow -6 \text{ で括る} \\ &= -6x_1 + 2x & \boxed{x_1 = (-2)x + y} \\ &= 2(-3x_1 + x) & \leftarrow 2 \text{ で括る} \\ &= 2x_2 & \boxed{x_2 = -3x_1 + x} \end{aligned}$$

ゆえに, $2x_2 = 4$ だから, $x_2 = 2$.

■ 特殊解 $x_1 = 0$ とおく.

$$x = x_2 - (-3)x_1 = 2$$

$$y = x_1 - (-2)x = 4$$

■ 一般解 $x_1 = u$ とおく.

$$x = x_2 - (-3)x_1 = 2 + 3u$$

$$y = x_1 - (-2)x = u + 2(2 + 3u) = 4 + 7u$$

17

1次不定方程式の解法(続き6)

例: $60x + 100y + 150z = 1330$ の整数解 x, y, z

■ $6x + 10y + 15z = 133$ の整数解を求める

$$\begin{aligned} 6x + 10y + 15z &= 6(x + y + 2z) + 4y + 3z & \leftarrow 6 \text{ で括る} \\ &= 6u + 4y + 3z & \boxed{u = x + y + 2z} \\ &= 3(2u + y + z) + y & \leftarrow 3 \text{ で括る} \\ &= 3v + y & \boxed{v = 2u + y + z} \end{aligned}$$

ゆえに, $3v + y = 133$ だから, $y = 133 - 3v$.

$$z = v - 2u - y = v - 2u - (133 - 3v) = -2u + 4v - 133$$

$$x = u - y - 2z = u - (133 - 3v) - 2(-2u + 4v - 133)$$

$$= 5u - 5v + 133$$

■ $u = 19, v = 44$ のとき, $x = 8, y = 1, z = 5$

■ $u = 19, v = 43$ のとき, $x = 13, y = 4, z = 1$

18

整数を法とする合同関係(復習)

- $m, n, p \in \mathbb{Z}$ に対して,
 m と n は p を法(modulo)として合同(congruent)
 $\dots m \equiv_p n, m \equiv n \pmod{p}$
- m と n は p で割ったときの剰余が等しい
- $m - n$ は p の倍数
- $p \mid m - n$

例:

- $365 \equiv 1 \pmod{7}$
 - $365 - 1 = 364 = 52 \cdot 7$
- $-12 \equiv 14 \pmod{13}$
 - $-12 - 14 = -26 = -2 \cdot 13$

19

整数を法とする合同関係(続き)

- $m \equiv n \pmod{p}$
 - $p \mid m - n$
- $m \equiv 0 \pmod{p}$
 - $p \mid m$
- $m \equiv n \pmod{p} \iff m \equiv n \pmod{-p}$
 - $p \mid m - n \iff -p \mid m - n$

20

定理(復習)

$p \in \mathbb{Z}$ を法とする合同関係は \mathbb{Z} 上の同値関係である。

- すなわち、次の(1)～(3)が成り立つ。
- (1) 任意の $m \in \mathbb{Z}$ に対して、 $m \equiv m \pmod{p}$.
- (2) 任意の $m, n \in \mathbb{Z}$ に対して、
 $m \equiv n \pmod{p}$ ならば、 $n \equiv m \pmod{p}$.
- (3) 任意の $m, n, l \in \mathbb{Z}$ に対して、
 $m \equiv n \pmod{p}$ かつ $n \equiv l \pmod{p}$ ならば、 $m \equiv l \pmod{p}$.

21

定理

任意の $m, n, p \in \mathbb{Z}$ ($p \neq 0$) に対して、次の(1)～(3)は互いに同値である。

- (1) $m \equiv n \pmod{p}$
- (2) $k \in \mathbb{Z}$ が存在して、 $m = n + k \cdot p$
- (3) m を p で割ったときの剰余と
 n を p で割ったときの剰余は等しい

22

証明

任意の $m, n, p \in \mathbb{Z}$ ($p \neq 0$) に対して、次の(1)～(3)は互いに同値である。

- (1) $m \equiv n \pmod{p}$
- (2) $k \in \mathbb{Z}$ が存在して、 $m = n + k \cdot p$
- (3) m を p で割ったときの剰余と n を p で割ったときの剰余は等しい
 - a) 「(1)ならば(2)」を示す。
 - b) 「(2)ならば(3)」を示す。
 - c) 「(3)ならば(1)」を示す。

a) $m \equiv n \pmod{p}$ と仮定する。

このとき、 $p \mid m - n$.

ゆえに、 $k \in \mathbb{Z}$ が存在して、 $m - n = k \cdot p$.

すなわち、 $m = n + k \cdot p$.

23

証明(続き)

任意の $m, n, p \in \mathbb{Z}$ ($p \neq 0$) に対して、次の(1)～(3)は互いに同値である。

- (1) $m \equiv n \pmod{p}$
 - (2) $k \in \mathbb{Z}$ が存在して、 $m = n + k \cdot p$
 - (3) m を p で割ったときの剰余と n を p で割ったときの剰余は等しい
 - b) 「(2)ならば(3)」を示す。
- b) ある $k \in \mathbb{Z}$ に対して、 $m = n + k \cdot p$ と仮定する。
 また、 m, n を p で割ったときの剰余をそれぞれ $r, r' \in \mathbb{Z}$ とする。
 このとき、 $q, q' \in \mathbb{Z}$ に対して、 $m = q \cdot p + r, n = q' \cdot p + r'$
 $(0 \leq r < |p|, 0 \leq r' < |p|)$.
 ゆえに、 $m = (q' \cdot p + r') + k \cdot p = q \cdot p + r$ だから、
 $(q - q' - k)p - (r - r') = 0$.
- $p \neq 0$ だから、 $q - q' = k$, かつ, $r = r'$.
- ゆえに、 m を p で割ったときの剰余と n を p で割ったときの剰余は等しい。 24

証明(続き2)

任意の $m, n, p \in \mathbb{Z}$ ($p \neq 0$) に対して、次の(1)～(3)は互いに同値である。

- (1) $m \equiv n \pmod{p}$
 - (2) $k \in \mathbb{Z}$ が存在して、 $m = n + k \cdot p$
 - (3) m を p で割ったときの剰余と n を p で割ったときの剰余は等しい
 - c) 「(3)ならば(1)」を示す。
- c) $q, q', r \in \mathbb{Z}$ に対して、
 $m = q \cdot p + r, n = q' \cdot p + r$ ($0 \leq r < |p|$) と仮定する。
このとき、 $m - n = (q - q')p$.
 $q - q' \in \mathbb{Z}$ だから、 $p \mid m - n$.
すなわち、 $m \equiv n \pmod{p}$.

25

定理(合同関係における加減乗算)

任意の $a, b, c, d, p \in \mathbb{Z}$ に対して、

$a \equiv b \pmod{p}, c \equiv d \pmod{p}$ ならば、次の(1)～(3)が成り立つ。

- (1) $a + c \equiv b + d \pmod{p}$
- (2) $a - c \equiv b - d \pmod{p}$
- (3) $ac \equiv bd \pmod{p}$

【参考】任意の $a, b, c, d \in \mathbb{Z}$ に対して、
 $a = b, c = d$ ならば、

次の(1)～(3)が成り立つ。

- (1) $a + c = b + d$
- (2) $a - c = b - d$
- (3) $ac = bd$

例：

- $29 \equiv -1 \pmod{6}, 13 \equiv 1 \pmod{6}$
 - $29 + 1 \equiv -1 + 1 \pmod{6}$, すなわち, $42 \equiv 0 \pmod{6}$.
 - $29 - 13 \equiv -1 - 1 \pmod{6}$, すなわち, $16 \equiv -2 \pmod{6}$.
- $25 \equiv 14 \pmod{11}, 79 \equiv 2 \pmod{11}$
 - $25 \cdot 79 \equiv 14 \cdot 2 \pmod{11}$, すなわち, $1975 \equiv 28 \pmod{11}$.

26

証明

任意の $a, b, c, d, p \in \mathbb{Z}$ に対して、

$a \equiv b \pmod{p}, c \equiv d \pmod{p}$ ならば、

- (1) $a + c \equiv b + d \pmod{p}$

$a \equiv b \pmod{p}, c \equiv d \pmod{p}$ だから、 $q, q' \in \mathbb{Z}$ が存在して、
 $a - b = q \cdot p, c - d = q' \cdot p$.

- (1) $(a + c) - (b + d) = (a - b) + (c - d)$
 $= q \cdot p + q' \cdot p$
 $= (q + q')p$
 $q + q' \in \mathbb{Z}$ だから、 $a + c \equiv b + d \pmod{p}$.

27

証明(続き)

任意の $a, b, c, d, p \in \mathbb{Z}$ に対して、

$a \equiv b \pmod{p}, c \equiv d \pmod{p}$ ならば、

- (3) $ac \equiv bd \pmod{p}$

$a \equiv b \pmod{p}, c \equiv d \pmod{p}$ だから、 $q, q' \in \mathbb{Z}$ が存在して、
 $a - b = q \cdot p, c - d = q' \cdot p$.

- (3) $ac - bd = (a - b)c + b(c - d)$
 $= q \cdot p \cdot c + b \cdot q' \cdot p$
 $= (qc + bq')p$
 $qc + bq' \in \mathbb{Z}$ だから、 $ac \equiv bd \pmod{p}$.

28

系(合同関係における加減乗算)

任意の $a, b, c, p \in \mathbb{Z}$ に対して、 $a \equiv b \pmod{p}$ ならば、次の(1)～(3)が成り立つ。

- (1) $a \pm c \equiv b \pm c \pmod{p}$
- (2) $ac \equiv bc \pmod{p}$
- (3) $a^n \equiv b^n \pmod{p}$ ($n \in \mathbb{N}_0$)

【参考】任意の $a, b, c \in \mathbb{Z}$ に対して、 $a = b$ ならば、次の(1)～(3)が成り立つ。

- (1) $a \pm c = b \pm c$
- (2) $ac = bc$
- (3) $a^n = b^n$ ($n \in \mathbb{N}_0$)

29

証明

任意の $a, b, c, p \in \mathbb{Z}$ に対して、 $a \equiv b \pmod{p}$ ならば、

- (1) $a \pm c \equiv b \pm c \pmod{p}$
- (2) $ac \equiv bc \pmod{p}$
- (3) $a^n \equiv b^n \pmod{p}$ ($n \in \mathbb{N}_0$)

(1), (2) $c \equiv c \pmod{p}$ だから、定理より明らか。
(3) n に関する帰納法により示す。

(基底段階) $n=0$ のとき。

$a^0 = b^0 = 1, 1 \equiv 1 \pmod{p}$ だから、明らか。

(帰納段階) $a^{n-1} \equiv b^{n-1} \pmod{p}$ と仮定する。

$a \equiv b \pmod{p}$ だから、定理より、 $a^{n-1} \cdot a \equiv b^{n-1} \cdot b \pmod{p}$.
ゆえに、 $a^n \equiv b^n \pmod{p}$.

30

合同関係における乗算(続き)

例: 795^{25} を11で割ったときの剰余

- $795 \equiv 3 \pmod{11}$
- $795^{25} \equiv 3^{25} \pmod{11}$
- $3^2 = 9 \equiv -2 \pmod{11}$
- $3^4 = (3^2)^2 \equiv (-2)^2 = 4 \pmod{11}$
- $3^8 = (3^4)^2 \equiv 4^2 = 16 \equiv 5 \pmod{11}$
- $3^{16} = (3^8)^2 \equiv 5^2 = 25 \equiv 3 \pmod{11}$
- $3^{25} = 3^{16} \cdot 3^8 \cdot 3^1 \equiv 3 \cdot 5 \cdot 3 = 15 \cdot 3 \equiv 4 \cdot 3 \equiv 1 \pmod{11}$
- ゆえに, $795^{25} \equiv 1 \pmod{11}$

31

合同関係の応用

任意の $a, b \in \mathbb{Z}$ に対して, $365a+b \equiv a+b \pmod{7}$

- a 年後(その間に閏日 b 回)の同じ日の曜日

例: 1979年1月1日(月)に対して, 2016年1月1日(日)

- $365 \cdot 37 + 9 \equiv 37 + 2 \equiv 2 + 2 \equiv 4 \pmod{7}$

- 7で割ったときの剰余

$0 \rightarrow \text{月}, 1 \rightarrow \text{火}, 2 \rightarrow \text{水}, 3 \rightarrow \text{木}, 4 \rightarrow \text{金}, 5 \rightarrow \text{土}, 6 \rightarrow \text{日}$

$365 - 1 = 364 = 52 \cdot 7$ だから, $365 \equiv 1 \pmod{7}$

ゆえに, $365a+b \equiv a+b \pmod{7}$

32

合同関係の応用(続き)

九去法(casting out nines)(9で割ったときの剰余)

例: $12,345,678 \equiv 1+2+\dots+7+8=36 \equiv 0 \pmod{9}$

$$\begin{aligned} n &= (a_k a_{k-1} \dots a_1 a_0)_{10} \\ &= a_k 10^k + a_{k-1} 10^{k-1} + \dots + a_1 10^1 + a_0 \quad (a_i \in \mathbb{N}_0, 0 \leq a_i < 10) \end{aligned}$$

に対して,

$$n \equiv a_k + a_{k-1} + \dots + a_1 + a_0 \pmod{9}$$

- $9 \mid n$ iff $9 \mid a_k + a_{k-1} + \dots + a_1 + a_0$

$10 \equiv 1 \pmod{9}$

$10^i \equiv 1^i = 1 \pmod{9}$

$a_i 10^i \equiv a_i \pmod{9}$

ゆえに,

$n = a_k 10^k + a_{k-1} 10^{k-1} + \dots + a_1 10^1 + a_0 \equiv a_k + a_{k-1} + \dots + a_1 + a_0 \pmod{9}$

33

合同関係の応用(続き2)

11で割ったときの剰余

例: $12,345,678 \equiv -1+2-3+4-5+6-7+8=4 \pmod{11}$

$$\begin{aligned} n &= (a_k a_{k-1} \dots a_1 a_0)_{10} \\ &= a_k 10^k + a_{k-1} 10^{k-1} + \dots + a_1 10^1 + a_0 \quad (a_i \in \mathbb{N}_0, 0 \leq a_i < 10) \end{aligned}$$

に対して,

$$n \equiv (-1)^k a_k + (-1)^{k-1} a_{k-1} + \dots - a_1 + a_0 \pmod{11}$$

- $11 \mid n$ iff $11 \mid (-1)^k a_k + (-1)^{k-1} a_{k-1} + \dots - a_1 + a_0$

$10 \equiv -1 \pmod{11}$

$10^i \equiv (-1)^i \pmod{11}$

ゆえに,

$$n = a_k 10^k + a_{k-1} 10^{k-1} + \dots + a_1 10^1 + a_0$$

$$\equiv (-1)^k a_k + (-1)^{k-1} a_{k-1} + \dots - a_1 + a_0 \pmod{11}$$

$$10^{2i} \equiv (-1)^{2i} = 1 \pmod{11}, 10^{2i+1} \equiv (-1)^{2i+1} = -1 \pmod{11}$$

34

合同関係の応用(続き3)

7で割ったときの剰余

例: $12,345,678 \equiv 12-345+678 \equiv 5-2+6=9 \equiv 2 \pmod{7}$

$$n = u_k 1000^k + u_{k-1} 1000^{k-1} + \dots + u_1 1000^1 + u_0 \quad (u_i \in \mathbb{N}_0, 0 \leq u_i < 1000)$$

に対して,

$$n \equiv (-1)^k u_k + (-1)^{k-1} u_{k-1} + \dots - u_1 + u_0 \pmod{7}$$

- $7 \mid n$ iff $7 \mid (-1)^k u_k + (-1)^{k-1} u_{k-1} + \dots - u_1 + u_0$

$1000 = 7 \cdot 11 \cdot 13$ だから, $1000 \equiv -1 \pmod{7}$

$1000^i \equiv (-1)^i \pmod{7}$

ゆえに,

$$n = u_k 1000^k + u_{k-1} 1000^{k-1} + \dots + u_1 1000^1 + u_0$$

$$\equiv (-1)^k u_k + (-1)^{k-1} u_{k-1} + \dots - u_1 + u_0 \pmod{7}$$

$$1000^{2i} \equiv (-1)^{2i} = 1 \pmod{7}, 1000^{2i+1} \equiv (-1)^{2i+1} = -1 \pmod{7}$$

35

定理(合同関係における除算)

任意の $a, b, c, p \in \mathbb{Z}$ に対して,

$ac \equiv bc \pmod{p}$ かつ $\gcd(c, p) = d$ ($\neq 0$)ならば,

$$a \equiv b \pmod{\frac{p}{d}}.$$

【参考】任意の $a, b, c \in \mathbb{Z}$ に対して,
 $ac = bc$ かつ $c \neq 0$ ならば, $a = b$.

整数を法とする合同関係では

- 「 $ac \equiv bc$ かつ $c \neq 0 \pmod{p}$ 」は一般に成り立たない.

例: $7 \times 2 \equiv 4 \times 2 \pmod{6}, 2 \neq 0 \pmod{6}$ であるが, $7 \not\equiv 4 \pmod{6}$

- $ac \equiv bc \pmod{p}$ かつ $\gcd(c, p) = 1$ ならば, $a \equiv b \pmod{p}$.

例: $7 \times 5 \equiv 1 \times 5 \pmod{6}, \gcd(5, 6) = 1$ であり, $7 \equiv 1 \pmod{6}$.

36

証明

任意の $a, b, c, p \in \mathbb{Z}$ に対して,
 $ac \equiv bc \pmod{p}$ かつ $\gcd(c, p) = d (\neq 0)$ ならば,
 $a \equiv b \pmod{\frac{p}{d}}$.

d は c, p の最大公約数だから, $c', p' \in \mathbb{Z}$ が存在して,
 $c=c' \cdot d, p=p' \cdot d$.
このとき, $\gcd(c', p')=1$.
また, $ac \equiv bc \pmod{p}$ だから, $q \in \mathbb{Z}$ が存在して, $ac - bc = q \cdot p$.
ゆえに, $(a-b)c'd = qp'd$ だから, $p' \mid (a-b)c'$.
 $\gcd(c', p')=1$ だから, $p' \mid a-b$.
すなわち, $a \equiv b \pmod{p'}$ だから, $a \equiv b \pmod{\frac{p}{d}}$.

37

合同関係における零因子

- $a \in \mathbb{Z}$ は $p \in \mathbb{Z}$ を法とする合同関係における零因子 (zero divisor) である
 - $c \in \mathbb{Z}$ が存在して, $c \not\equiv 0 \pmod{p}$ かつ $ac \equiv ca \equiv 0 \pmod{p}$

例: 2 は 6 を法とする合同関係における零因子

- $3 \not\equiv 0 \pmod{6}$ に対して, $2 \cdot 3 = 3 \cdot 2 = 6 \equiv 0 \pmod{6}$

- 通常の等号関係では

$ac = 0$ ならば $a = 0$ または $c = 0$.

- 整数を法とする合同関係では

$ac \equiv 0 \pmod{p}$ であっても,

$a \equiv 0 \pmod{p}$ または $c \equiv 0 \pmod{p}$ とは限らない.

38

系(合同関係における除算)

任意の $a, b, c \in \mathbb{Z}$ と任意の素数 p に対して,
次の(1), (2)が成り立つ.
(1) $ac \equiv bc \pmod{p}$ かつ $c \not\equiv 0 \pmod{p}$ ならば,
 $a \equiv b \pmod{p}$.

(2) $ac \equiv 0 \pmod{p}$ ならば,
 $a \equiv 0 \pmod{p}$ または $c \equiv 0 \pmod{p}$.

- 素数を法とする合同関係については、通常の等号関係と同様に除算を行える.

39

証明

任意の $a, b, c \in \mathbb{Z}$ と任意の素数 p に対して,
次の(1), (2)が成り立つ.

- (1) $ac \equiv bc \pmod{p}$ かつ $c \not\equiv 0 \pmod{p}$ ならば, $a \equiv b \pmod{p}$.
- (2) $ac \equiv 0 \pmod{p}$ ならば, $a \equiv 0 \pmod{p}$ または $c \equiv 0 \pmod{p}$.

- (1) $c \not\equiv 0 \pmod{p}$ だから, $p \nmid c$ でない.

ゆえに, $\gcd(c, p) = 1$ となり, 定理より明らか.

- (2) $ac \equiv 0 \pmod{p}$ とする.

ここで, $a \not\equiv 0 \pmod{p}$ かつ $c \not\equiv 0 \pmod{p}$ と仮定する.

(1)において $b=0$ とおくと, $a \equiv 0 \pmod{p}$.

これは矛盾.

ゆえに, $a \equiv 0 \pmod{p}$ または $c \equiv 0 \pmod{p}$.

40

まとめ

- 今回の講義
 - 1次不定方程式
 - 合同式
- 次回の講義
 - 合同式(続き)(教科書 pp.131-137, 140-145)
- 今回の演習
 - なし

41